

むさしせきこうえん
武蔵関公園

ふじみいけ
富士見池



せきまちとしょかん さつえい
R5.1.28 関町図書館スタッフ撮影

ねりまくせきまちきた むさしせきこうえん ふじみいけ いけ
・練馬区関町北の武蔵関公園には、「富士見池」というボート池があります。

のう ひと いけ えどじだい かみしゃくじい しもしゃくじい やはら
・かつては農ぎょうをする人たちのための「ため池」で、江戸時代には上石神井・下石神井・谷原・
たなか せき むら みず
田中・関という5つの村でまもりながら、その水をつかっていました。

せき ちめい むかし としまし ちから
・「関」という地名は、昔 このあたりをおさめていた豊島氏というごぞく（力のつよいさむらいた
しゅうだん せきしよ ひと ひと かね
ちの集団）が関所（とおる人をしらべたり、とおる人からお金をとるしせつ）のようなものをつくって
いたため、とされていますが、池からながれだす石神井川に「せき」（せきとめる場所）があったた
め、ともいわれています。

ひがしふしみいなりじんじゃ ふしみがいけ ふしみいけ
・東伏見稲荷神社のちかくにあるので、むかしは「伏見ヶ池」「伏見池」とよばれていました。これが
ふじみ
のちに「富士見」の字にかわったようです。

・あたりはサクラがきれいなことでも知られています。

しんぺんむさしふときこう よ
（「新編武蔵風土記稿を読む」より）

さくせい ねりまくりつせきまちとしょかん
作成／練馬区立関町図書館 Tel 03-3929-5391

もっとくわしく知りたい人へ

ねりまくりつむさしせきこうえん ふじみいけ いけ ちゅうしん しぜんゆた こうえん
・練馬区立武蔵関公園は、富士見池（ポート池）を中心とした自然豊かな公園です。

みず ばしょ えとじだい のうぎょう つか いけ
・もともとわき水のゆたかな場所で、江戸時代にはこれをあつめて農業に使う「ため池」にしていました。そのため、むかしは「関の溜井」とよばれていました。今の池はこれをもとにして、ポートで遊べるようにつくりかえたものです。

たいしょうじだい わかみやうえん こうえん しょうわ ねん とうきょうしりつむさしせきこうえん しょうわ
・大正時代には「若宮遊園」という公園でしたが、1938(昭和13)年に「東京市立武蔵関公園」、1975(昭和50)年に「練馬区立武蔵関公園」になりました。

いま しゃくじいがわ みず いちじてき すい ちょうせいち
・今は石神井川の水を一時的にためて、こう水をふせぐための「調整池」にもなっています。

とうざい かたち いけ あし しま まつ しま しま
・「ひょうたん」を東西においたような形の池で、「葦の島」と「松の島」という2つの島があります。

くりつこうえん なか おお めいぼく
・区立公園の中でもっとも大きく、「ねりまの名木」であるトチノキ・ムクノキをはじめ、コナラ・クヌギなどもはえており、池はわたり鳥もとんでくる野鳥の楽園となっています。

せき ちめい ちゅうせい ふきん としまいちぞく かいどう せき せきしょ
・「関」の地名は、「中世のころ付近をおさめていた豊島一族が、街道に関（関所）をもうけていたことからついた」ともされていますが、「池からながれだす石神井川に『堰』（川をせきとめる場所）があったことからついた」とする説が有力です。

ひがしふしみいなりじんじや ちか ふしみがいけ ふしみいけ ふしみいけ
・東伏見稲荷神社の近くにあったので、むかしは「伏見ヶ池」「伏見池」とよばれ、それがのちに「富士見池」に変わったようです（池から富士山はみえません）。



むさしせきこうえんふじみいけ
【ねりまっぴ】武蔵関公園富士見池

さんこう ほん
【参考にした本など】

しんべんむさしふときこう よ へん しげたまさお しらいてつや しゅっぱん しゅっぱんかい
『新編武蔵風土記稿を読む』編：重田正夫・白井哲哉 出版：さいたま出版会

ねりま じてん へん ねりまこもんじょけんきゅうかい しゅっぱん とうきょうどうしゅっぱん
『練馬ふるさと事典』編：練馬古文書研究会 出版：東京堂出版

かんしゅう かつらぎあきひこ きょうとしか
監修／葛城明彦（郷土史家）

へんしゅう はっこう ねりまくりつしゃくじいとしゃかん おおいすみとしゃかん せきまちとしゃかん ぬくいとしゃかん みなみたなかとしゃかん
編集・発行／練馬区立石神井図書館、大泉図書館、関町図書館、貫井図書館、南田中図書館

はっこうび れいわ ねん がつ
発行日／令和5年3月